

かまくら 女性史の会 Newsletter

第 130 号

2025 年 9 月 20 日 発行

〒248-0012 鎌倉市御成町 18-10

NPOセンター鎌倉 気付

メールボックス 26

E-mail: syokmat@yahoo.co.jp

《これから子供会は？》

私が住んでいる所は大規模開発された約千世帯の住宅地で、大方の世帯が町内会に入っている。町内会の名称から鎌倉の小高い丘のつらなりを造成したものと思われる。今年度その町内会役員になった。

他の町内会の子供会の様子は知らないが、当町内会の福祉グループである子供会の役員は小学生の母親が順に務めていた。私が子供会の役員をしたころは圧倒的に専業主婦が多い時だった。また子供たちが通っていた小学校はPTAがないので、子供会がその役割の一端を担うというものでもあった。大方の子供たちが子供会に所属し、色々な催しに参加して、楽しい思い出になったと思う。その催しを子供会の役員（小学校 5.4 年生の母親）になった人たちが企画・運営した。たいへんな事もあったが、地域の異学年の子供たちが楽しく交流できるようにと、また住民の出身地がばらばらでほとんどが核家族なので、親同士の交流もでき、自分の子以外の子供たちと接することもできて楽しかった。これは私自身が見えていた側面だけであって、子供会の役割が苦痛な人もいただろう。

しかし団塊ジュニアが親世代になった頃から子供の少子化は進み、母親も仕事に就き、子供会の役まで手が回らない事態になっている。子供が高学年になってくると、親が子供会の役員になりたくない人やできないと思っている人、私学を受けるため塾で忙しい人など子供会を退会する会員が増えてきた。そうすると、この役割を仕事に就いていない母親や、フルタイムで働いていない母親が担う事になり、役員への負担が大きくなってきた。当町内会ではいよいよ今年度から役員になる人がいなくなり、子供会が休会という事態になった。

そこで今年度は子供会の催しを町内会が少しでも代行しようという事になり、最近では夏祭りでの例年の子供会の出し物を町内会の役員が行った。そして夏祭りだけのお手伝いの協力を皆さんに呼び掛けた結果、うれしいことに、それに答えてくれた人が思っていたよりも多かった。小学生の子供の親だけでなく、高齢の方や、男性の参加もあった。このことは年間を通じての役割はできないが、一時的なお手伝いなら出来るという事なのか？暑い中でもお祭りに参加した町内の人や子供たちは多く、用意した 200 枚の催しのスタンプラリーカードや、お菓子など足りなくなったくらいで、世話をした人たちは休む間もなく大盛況だった。そして町内会は例年より忙しくなってきた。

子ども達はスポーツクラブなどで異年齢の交流はあるが、もともと地縁の無い住宅地である。しかしここで生まれ、育った子供たちが良い地縁を作るのに子供会が少しでもかかわってくれたらと思う。

昨今は町内会に入らない世帯が多くなってきていると聞く。今後子供会の状況が町内会自体に及んでいく可能性は多いに考えられる。今後大きな災害など非常事態が起こった時など、地域の動勢を把握していて、緩いつながりの町内会や子供会の存在は有益だと思われるが、今後これらのシステムはどのようになっていくのだろうか？

2025 年 9 月 20 日 かまくら女性史の会会員 高階志津江